



Book Week in Japan (Dokusho Shukan) : 授業ア イデア (簡単版)

読書週間をテーマにした英語の授業アイデア 2本

Class _____ No. _____ Name _____

1. 英語で作ろう！わたしの読書週間の標語

中学・25分

🎯 歴代の標語を英語で味わい、自分の読書週間の標語を英語で作って理由とともに発表する。

1. 「楽しく読んで明るく生きよう」(1947年)、「気がつけば、もう降りる駅。」(2010年)、「静かだけど、冒険中。」(2026年)を英語にしたカードを見せ、どの年の標語か予想する。
2. 短い標語の型 (Read and _____. / A book is a _____.) を使い、自分の標語を英語で作る。
3. My slogan is ... because ... の形でグループで発表し、いちばん気に入った標語に投票する。

2. データで話そう：日本人は本を読まなくなった？

高校・30分

🎯 読書量の調査の数字を英語で説明し、本から離れる理由と対策を英語で話し合う。

1. 文化庁の調査(1か月に1冊も読まない人 62.6%、前回47.3%)と、学校読書調査(小学生12.1冊・中学生3.9冊・高校生1.4冊)の数字を表で示す。
2. About 63 percent of people ... / High school students read only ... の形で、数字を英語の文にする。
3. なぜ年齢が上がると読まなくなるのか、理由を2つグループで考え、英語で書く。
4. 「自分たちの学校の読書週間でできること」を1つ提案し、クラスで発表する。



1. 英語で作ろう！わたしの読書週間の標語

授業手順書（詳細版）／対象：中学／25分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

読書週間が1947年に始まり、毎年標語が作られていることを英語で理解する。
歴代の標語の英訳を読んで年を予想し、短い型を使って自分の標語を英語で作
り、My slogan is ... because ... の形で理由とともに発表できる。

準備

- 標語カード3枚（英訳と日本語の原文）：Read happily, live brightly.（1947年「楽しく読んで明るく生きよう」）／Before I knew it, it was my stop.（2010年「気がつけば、もう降りる駅。」）／Quiet, but on an adventure.（2026年「静かだけど、冒険中。」）
- 基本セット p.1（読解：Two Weeks for Books）と英語ページの音声
- 標語づくりのワークシート（型：Read and _____. / A book is a _____. / _____., but _____.）
- 投票用の小さなシール（1人1枚）

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	4	英語ページの音声で本文の第2段落と第3段落を聞かせる。読書週間が10月27日から11月9日の2週間であること、毎年新しい標語とポスターがあることを確認する。	音声を聞き、期間と「毎年変わるもの」を聞き取る。	"Listen to the story about Book Week in Japan." "How long is Book Week? Yes, two weeks." "What is new every year? A slogan and a poster."
展開1	6	標語カード3枚を見せ、1947年・2010年・2026年のどれかを予想させる。答え合わせのあと、1947年は戦後まもない時期だったこと、2010年は電車で本に夢になる場面であること、2026年は663の応募から選ばれたことを伝える。	英訳を読み、どの年の標語かへアで予想して理由を言う。	"Here are three slogans. They are from 1947, 2010, and 2026." "Which one is from 1947? Why do you think so?" ""Before I knew it, it was my stop." Where is this person?" "The 2026 slogan was chosen from 663 ideas."
展開2	8	ワークシートを配り、3つの型から1つを選んで自分の標語を英語で書かせる。先生の例（A book is a door to another world.）を示し、短くてリズムのよい言葉にしよう伝える。理由を because のあとに1文で書かせる。	型を選んで英語の標語を作り、理由を1文で書く。	"Here is my slogan: A book is a door to another world." "Choose one pattern and make your own slogan." "Keep it short. Five or six words is great." "Then write the reason after "because.""
展開3	4	4人グループで1人ずつ My slogan is ... because ... の形で発表させる。発表が終わったら、いちばん気に入った標語に1人1枚シールを貼って投票させる。	グループで標語と理由を発表し、気に入った標語に投票する。	"Say, "My slogan is ... because ..."" "Listen and choose your favorite slogan." "Put your sticker on it."
まとめ	3	各グループでいちばん票を集めた標語をクラスに紹介させる。読書週間は戦後に「読書の力で平和な国を」という思いで始まったことをふり取り、今週読みたい本を1冊考えさせて終える。	グループの代表の標語を聞き、今週読みたい本を考える。	"Which slogan won in your group?" "Book Week started in 1947 to build a peaceful country through reading." "What book will you read this week?"

板書例

Book Week in Japan (Dokusho Shukan)

October 27 - November 9 (two weeks)
started in 1947

Slogans

1947 Read happily, live brightly.
2010 Before I knew it, it was my stop.
2026 Quiet, but on an adventure.

Patterns

• Read and _____.
• A book is a _____.
• _____., but _____.
My slogan is "_____" because _____.

評価のポイント

- 標語の英訳を読み、内容から年を予想する理由を言えたか。
- 型を使って、短く意味の通る英語の標語を作れたか。
- My slogan is ... because ... の形で、理由とともに発表できたか。

つまずきへの手だて

- 標語が思い浮かばない生徒には、本を読むと「どんな気持ちになるか」「どこへ行けるか」を日本語で考えさせ、A book is a _____. の空所に入る名詞（door, friend, trip, window）をカードで示す。
- because のあとが書けない生徒には、I like ... / Reading makes me ... の書き出しを渡す。
- 発表が苦手な生徒は、標語の部分だけを読み、理由はグループの仲間と一緒に言う。

発展

- 基本セット p.2（4択・True or False）で本文の内容を確認する。
- 基本セット p.7 の作文 My slogan for Book Week is "_____" because _____ で、標語と理由を清書する。
- クラスの標語を集めて図書室の掲示用ポスターを作る。

使う教材

- 基本セット p.1（読解：Two Weeks for Books）と英語ページの音声
- 基本セット p.2（4択・True or False）
- 基本セット p.7（作文）



2. データで話そう：日本人は本を読まなくなった？

授業手順書（詳細版）／対象：高校／30分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

文化庁の「国語に関する世論調査」と全国学校図書館協議会の学校読書調査の数字を、英語の文で正確に説明できる。年齢が上がるほど本から離れる理由を考え、自分たちの学校の読書週間でできることを英語で提案できる。

準備

- データの表（英語）：People aged 16 and over who read no books in a month : 47.3% (2018年度調査) → 62.6% (2024年発表の調査) / Books read in May 2025 : elementary 12.1, junior high 3.9, high school 1.4 / High school students who read no books in May 2025 : 55.7%
- 基本セット p.1 (読解：Two Weeks for Books) の第4段落と英語ページの音声
- 数字を説明する表現のカード (about ... percent / only ... / increased from ... to ... / The older ..., the fewer ...)
- 提案を書くA4の紙 (グループに1枚)

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	4	英語ページの音声で本文の第4段落を聞かせ、about 63 percent が何の数字かを確かめる。そのあと「小学生・中学生・高校生のうち、1か月に読む本がいちばん少ないのはどれか」を予想させる。	第4段落を聞いて数字の意味をつかみ、学年ごとの読書量を予想する。	"Listen to the last paragraph." "What does "about 63 percent" mean?" "Who reads the fewest books: elementary, junior high, or high school students? Guess."
展開1	7	データの表を配り、予想の答え合わせをする。表現カードを使い、ペアで数字を英語の文にさせる。62.6% は16歳以上が対象で、前回の47.3% から増えたこと、学校読書調査は5月の1か月の冊数であることを確認する。	表の数字を、表現カードを使って英語の文にする。	"Look at the table. Let's check your guess." "Make sentences with the numbers." "For example: High school students read only 1.4 books in May." "The number increased from 47.3 percent to 62.6 percent."
展開2	8	「なぜ年齢が上がると読まなくなるのか」をグループで考えさせ、理由を2つ英語で書かせる。文化庁の調査で、読書量が減った理由の上位にスマートフォンなどの情報機器に時間を取られることがあったことをヒントにする。	年齢が上がると読まなくなる理由を2つ考え、英語で書く。	"Why do older students read less? Think of two reasons." "In the survey, many people said phones take up their time." "What else? Clubs? Homework? Something else?"
展開3	7	読書週間に自分たちの学校でできることを1つ考え、We suggest ... because ... の形でA4の紙にまとめさせる。数字を1つ以上入れて理由を説明するよう指示する。	学校でできる読書の取り組みを1つ考え、数字を使った理由とともに英語でまとめる。	"Now, let's think about Book Week at our school." "Write one idea: We suggest ... because ..." "Use at least one number from the table."
まとめ	4	各グループに提案を発表させる。読書週間に1947年に「読書の力で平和な国を」と始まったことにふれ、80年後の今、本との付き合い方がどう変わったかを一言ずつ感想として言わせる。	提案を発表し、ほかのグループの案を聞いて感想を言う。	"Please share your idea." "Book Week started in 1947. Now it is the 80th Book Week." "How has reading changed? Tell me in one sentence."

板書例

Do people in Japan read less?

People aged 16+ who read no books in a month
47.3% (FY2018 survey) → 62.6% (FY2023 survey, reported in 2024)
Books read in May 2025
elementary 12.1 / junior high 3.9 / high school 1.4
high school students who read 0 books : 55.7%

- about ... percent
- only ...
- increased from ... to ...
- The older students get, the fewer books they read.

Why?

- phones take up time
-

We suggest ... because ...

評価のポイント

- 表の数字を、about / only / increased from ... to ... などを使って正確に英語で言えたか。
- 年齢が上がると読まなくなる理由を、自分たちの経験や調査の結果にもとづいて英語で書けたか。
- 数字を根拠にして、学校でできる読書の取り組みを英語で提案できたか。

つまづきへの手だて

- 数字の文が作れない生徒には、_____ students read _____ books in May. の型を渡し、表から数字を入れさせる。
- 理由が思いつかないグループには、時間・お金・興味の3つの観点を示す。
- 提案が書けないグループには、朝の読書・おすすめ本の紹介カード・図書室の展示などの例を日本語で示し、We suggest の後ろを英語にさせる。

発展

- Discussion の問い More and more adults in Japan read no books in a month. Is this a problem? What could change it? について、賛成・反対の立場で意見を書く。
- 記事の「海外に似た日はある？」の節を読み、アメリカの National Library Week が1958年に「本を読まなくなった」という心配から始まったことと、日本の読書週間の始まりをくらべる。
- アクティビティ集 B5 (国くらべ) の表で、世界の本の日・本の週間の祝い方のちがいを英語で説明する。

使う教材

- 基本セット p.1 (読解) と英語ページの音声
- アクティビティ集 B5 (国くらべ)
- 記事「よくある誤解とホント」の節 (読書量のデータ)